

令和4年度 県立竜ヶ崎第一高等学校自己評価表（定時制）

目 指 す 学 校 像	10年先を透徹した生徒主体の探究学習 【高潔】 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する 【誠実】 まっすぐ学びに向き合う、誠実で理知的な学びの場となる 【剛健】 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける 【協和】 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる				
昨年度の成果と課題	重 点 項 目		重 点 目 標		達成状況
ここ数年、継続的に取り組んだ結果、全学年にわたり落ち着いた学習に取り組める環境がだいぶ整ってきた。 特に中学校時代に不登校だった生徒がほとんど休まず登校するようになるなど安心・安全な定時制高校になった。 個別面談を定期的に実施したり、教員間での情報交換の機会を多く設けるなど生徒を支援する体制も整った。 小学校高学年から中学校3年生までに習得すべき学力を習得できていない生徒に対し、希望により「基礎学力補習」を実施することができた。習得状況は生徒によって大きな差が出たが、学び直しを繰り返すことによって意欲がより高まる事を期待し、補習を継続したい。	○学習指導の充実に努め、確かな学力の定着を図る。		①授業への積極的な参加を促し基礎的・基本的内容を身に付けさせ、一人一人が楽しく学べるよう学習環境を整える。 ②授業内容や指導法の工夫に努めながら指導スキルの向上に努め、日々の授業を充実させる。		B
	○進路指導を充実させ、希望する進路の実現に努める。		①個別面談を効果的に実施し、個々の生徒の実態を把握し、それぞれの能力・適性に応じた適切な進路指導に努める。特に就職指導・キャリア教育の充実に努める。 ②有効な進路情報の提示や資料の収集・活用に努め、日常のふれあいの中で生徒との良好な人間関係を維持し、自ら進路決定できるよう支援する。 ③キャリア・パスポートを活用し、ホームルームや総合的な探求(学習)の時間で目標設定や振り返りを行う。 ④教員間の情報の共有を促進し、組織力・協働力で効果的な進路指導を進める。		A
	○基本的な生活習慣の確立に努め規範意識を培う。		①社会の一員としての自覚を促し、当たり前のことを当たり前に行える生徒の育成に努める。あいさつの励行、清掃の徹底、規範意識や道徳心の育成により 落ち着いた学校生活づくりに努める。 ②教員間の協働体制の下、教員側の聴く態度を重視し教師と生徒の信頼関係の保持に努める。 ③心の悩み・仕事上の困りごとの把握や問題行動の早期発見・早期解決に努め、「いじめ」は絶対に許さないという意識の醸成に努める。		A
	○体育・スポーツ活動を奨励し、心身の陶冶と体力向上に努める。		①体育の授業や学校行事に積極的に参加させ、自ら考え行動する中から運動する楽しさや、仲間との交流の喜びを体感させ、活動意欲の向上を図る。 ②定時制通信制大会への参加を通して、自己の役割を自覚させ、助け合いや協力によって仲間意識を育むとともに、生徒間の相互理解や相互尊重の心、道徳心を養う。 ③校外活動を通して社会環境への関心を高め、意欲的に社会貢献のできる心豊かな人材の育成に努める。		B
	○働き方改革を推進し、教職員が健康で働きやすい環境づくりを目指す		①夏季休暇の100%取得、閉庁日の完全実施、年休(時間単位を含む)の積極的取得(15日以上)等、休暇の取得等がしやすい環境づくりを推進する。 ②きんむ君の活用等で教職員の超過勤務の状況を把握し、その改善やその他の課題解決に向けて取り組む。		A
三つの方針		具体的目標		評 価	次 年 度 へ の 主 な 課 題
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)		○10年先を透徹した生徒主体の探究学習 【高潔】 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する 【誠実】 まっすぐ学びに向き合う、誠実で理知的な学びの場となる 【剛健】 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける 【協和】 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる	B	・ 目的志向と使命感の浸透 ・ プロ教員としての意識・行動 ・ 世界の多様な人知との接触 ・ B Y O D に対応した授業の改善 ・ スクールカウンセラーの活用と保健室の環境整備 ・ 教材および資料等の共有化を促進し、業務の効率化をより一層の推進
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)		○授業計画や授業方法の工夫改善により生徒たちの学習意欲をより高め、学習活動を充実させることで、充実した学校生活を送れるよう支援する。 ○全教職員が生徒一人一人の状況や動向への把握・理解に努め、働きながら学ぶ生徒の「心の居場所・拠り所」となるよう学校環境の整備を図る。 ○働き方改革を念頭に置き、教育活動の維持・向上を図りつつ業務の効率化を進めてライフ・ワーク・バランスを一層改善し、公私ともに実りある豊かな生活を目指す。	A	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)		○本校の教育課程(カリキュラム)ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)にもとづき、高等学校において学びを深めながら、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材	A	
教科指導	生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力の充実・向上に努める。	生徒の実態に即した学習計画の立案と学習指導法の工夫を図る。		A	・ テスト前の時期に、学校に早く登校して自主的に学習する生徒が一定数いた。テスト以外の時期でも、早く来て学習する生徒が散見された。次年度はさらに増えるよう声かけをしていきたい。欠席の多い生徒に対して教科担当と担任との間で連携を図ることはできたが、欠席の多い生徒が一定数居るので、欠席を減らせるような方策を考えていきたい。
		学習評価は、観点別学習状況から総合的に評価する。		A	
		基礎学力補習や進学課外に積極的に参加させる。		B	
	欠席、遅刻に対する適正な指導を行う。	積極的な授業参加を促し、欠席、遅刻の過多については厳正に対応する。		B	
成績不振者に対する適切な指導を行う。	個別面談や家庭との連携を通して、成績不振の原因を把握し、改善策を探る。		B		

評価項目		具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価		次 年 度 へ の 主 な 課 題
教	国 語	話す・聞く、書く、読むの基本的な力や漢字力を身に付けさせる。	漢字検定などの資格取得を通して個々の生徒に目的意識を持たせる。	B	A	・生徒の実態を考慮しながら、学習展開を円滑に行い、上位者も含めて主体的な学習を促すことができた。 ・漢字検定は、受験する各級と対応する過去問を配布するなどし、資格取得に向けての学習意欲を高めたので合格率は上がりつつあるが、書き問題への対策など一層の工夫を要する。
			教材を生かして、話す・聞く、書く、読む力や、知識を身に付けさせる。	A		
		主体的な学習態度を身に付けさせる。	生徒の実態を考慮した授業展開を心がけて、意欲を持って学習する態度を養わせる。	A		
	地歴公民	地歴公民の基礎的な素養を身に付けさせる。	教科書の基本的な事項を理解させるために板書ノート提出を義務付ける。	A	B	・主体的に学習に取り組むことを念頭に置きつつ、全体の授業展開を円滑に行うことができた。インターネットを活用して、生徒の興味関心のある程度高めることはできたが、集中力を欠く生徒も若干見られた。全体的に思考力・判断力・表現力を養うための工夫をしていきたい。
		現代社会の諸問題に関心を持たせる。	社会の事象について、資料に基づいて多角的に分析して、自分の意見を表現できるようにする。	B		
		地理的な見方・考え方を養う。	地図や統計を活用して地理的事象を追究する技能を身に付けさせる。	A		
		歴史的思考力を身に付けさせる。	歴史的事象を、資料・年表・地図等と関連させ学習できるよう工夫する。	B		
		資料・史料の活用を身に付けさせる。	資料の活用を通し、発見学習などの要素を取り入れる。	B		
	数 学	基礎基本的な内容を身に付けさせる。	小学校・中学校の内容を未消化のままの生徒が多いことを考慮しつつ、将来、社会人として必要な基礎基本と言える数学的内容の修得習熟を図る。	A	A	・反復練習をさらに増やし、社会人として必要な最低限の計算力の修得習熟を図りたい。 ・数学検定での学力向上や、電卓検定の上級合格など昨年度より向上した。 ・上位者への学力向上を図る指導法の開発を図りたい。
		数学のよさに気付かせる。	数学的活動を通し、数学的な見方考え方のよさに気づき、物事を数学的に考えることの興味関心態度の向上を図る。	B		
	理 科	基礎学力の向上を図る。	提出物等の確認を計画的に行い、学習内容の定着度や理解度を把握する。	B	A	・ICTを効果的に活用し、科学的事象と実生活とのつながりを意識させることができた。 ・次年度は実験動画の活用の機会をさらに増やし、より印象を伴った理解を高めて、生徒の学習意欲向上を図りたい。
			学習内容を精選し、基礎的で科学的な語彙力の習得を向上させる。	A		
			生徒の学習意欲を常に喚起するような魅力的な授業展開と実験の充実を図る。	B		
		理科が分かる喜びを実感する授業への改善に努める。	デジタル教材の活用を図り、より理解しやすい授業の工夫を目指す。	A		
	保健体育	安全や健康についての理解を図る。	身近な話題を取り上げ、実生活と教科書の内容とのつながりを強化する。	A	A	・体育の授業において、より多くのスポーツ種目を実践することで生徒自身が生涯親しむことができる種目を探すきっかけとなったのではないかと考える。
運動の楽しさや喜びが深まるよう努める。			A			
技能の習得段階に即した、個に応じた指導を取り入れ授業を展開する。			A			
芸 術	基本的な技法を習得させる。	個々の能力・学習到達度に応じた指導を取り入れ、授業を展開する。	A	A	・各自の能力を把握しつつ、より意欲的に取り組めるよう努めていきたい。	
		完成させる力を身に付けさせる。	幅広い教材を取り入れ、興味・関心を引きだすよう努める。			A
(英語)	英語に慣れさせる。	基本的な語彙や文法を理解させる。	A	A	・授業態度は全学年を通じておおむね良好である。ICT機器を活用し、異文化に対する興味・関心を持たせることができた。また、生徒の実態を鑑み、教科書以外からも教材を得る等の工夫をする。	
	英語がわかる喜びを味わわせる。	語彙や文法の理解から短文の理解につなげていく。	B			
	異文化に興味を持たせる。	教科書の内容から文化の違いにも目を向けさせる。	A			
家 庭	家庭生活自立能力を身に付けさせる。	自立した生き方を考え「生きる力」を主体的に思考させる。	A	A	・家庭と直結している社会の問題や課題を、生徒が自ら考えられる授業を目指したい。	
	基本的技法を習得させる。	実習を通し、技能と修得の目標とする。	B			
情 報	情報化社会に生きる方法を学ばせる。	コンピュータに親しみ、生活に必要な情報を的確に収集する方法と伝達方法を学ぶ。	A	A	・自由度の高い課題を設定するなど、生徒の意欲を高めるような指導に努めていきたい。	
		生徒一人一人の創作意欲を高めるような教材提示の工夫を行い、表現力の向上を図る。	B			
		情報機器等を使った実習を通して、身の回りの様々な問題解決方法を学ぶ。	A			

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価		次 年 度 へ の 主 な 課 題
教 務	授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業の振替を確実に行う。	A	B	・急な年休の際の授業の振替について、確実に対応できるよう工夫をする必要がある。各科目の自習課題をあらかじめストックしておく等の体制を整備し対応できるようにしたい。新教育課程に向けて、観点別評価の内規を改正した。観点別評価の浸透を図っていきたい。
		急な年休に対応できるよう、各科目の自習課題を常にストックする。	B		
		教科・科目の授業時間のバランスを図り、学校行事などの調整を図る。	A		
	進級率100%を目指す。	個に応じたきめ細かな指導を行う。	B		
	授業規律を確立する。	分かる授業の展開。観点別評価規準の明確化。学ぶ姿勢を教える。	B		
	校内研修の充実を図る。	BYODに対応出来るICTリテラシーを身につける。	B		
	生徒の実態に合わせた教育課程を研究する。	生徒・教員による教育課程の評価を点検し、改善すべき点を見いだす。	A		
	教育活動の公表に努める。	積極的に中学校訪問を実施する。定時制専用の学校案内を作成する。HP更新の頻度を上げる。	A		
特別活動	各種の学校行事を通して帰属意識・連帯意識・協調性・責任感を養うことで、社会性の向上を図る。	生徒が学校生活を楽しみ、帰属意識・連帯意識が高まる学校行事を行う。	A	A	・今年度の生徒会行事では生徒が主体となり、学年の垣根を超えて生徒同士が協力して取り組む姿が見られた。来年度は今年の経験や反省点を踏まえ、生徒会行事をさらに良いものになるよう努めていきたい。
		生徒会行事を精選し、企画や運営に生徒がより主体的に参加できるようにする。	A		
	キャリア形成を図る。	ホームルームや総合的な探求(学習)の時間にキャリア・パスポートを活用して、過去を振り返り将来像を考えさせる。	B		
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	欠席・遅刻等の多い生徒や生活の乱れの目立つ生徒について家庭との連絡を密にし、その状況把握に努め、面談等を通して生徒一人ひとりに応じた適切な指導を行う。	B	A	・家庭訪問の実施において、ヤングケアラーの実態を実感した。生徒が孤立せず就学が継続できるよう、関係各所との連携をスムーズに行い、支援できるようにしたい。 ・遅刻が多いなど基本的生活習慣が乱れている生徒について、家庭との連携を取り、原因を究明し問題解決を図っていかねばならない。
	高校生・社会人としてふさわしい言動や社会規範を身に付けさせる。	日々の学校生活の中で、場面場面に応じた効果的な指導に努め、定時制における落ち着いた学校生活の環境整備を図る。	A		
	迅速な情報収集と的確な対応に努める。	定例職員打合せを通して全職員が生徒の動向を把握、共有することによって、問題の早期発見と早期指導に努める。	A		
	教育相談の充実	担任は元より、養護教諭やスクールカウンセリングを通して、心の教育の充実を図る。	A		
進路指導	個々の生徒の能力・適性に応じた進路指導に努める。	進路セミナーの実施などの他、進路別・個別的な進路相談を計画的・継続的にを行い、生徒の主体的な進路意識の涵養に努める。	A	A	・進路ガイダンス・労働セミナーなどの他に、外部の就職説明会やオープンキャンパス、インターンシップなどにも参加することができ、各生徒が進路決定について前向きに考えることができた。 ・早くから保護者及びハローワークや市役所の生活支援課などと連携して、各生徒に適した職種を考え、早期に就職先を決定することができた。1・2年生からの指導への工夫をさらに考えていきたい。 ・大学・専門学校への進学は少数であるが、全体で指導に取り組み生徒の希望をかなえることができた。
		進路情報の収集と提供に努め、生徒や保護者への啓発を図る。	B		
	進学希望者への対応を図る。	進学希望者の実情を把握し、面談を行って希望が実現できるよう指導してゆく。始業前の時間などを利用して、希望者には各教科で個別指導を行う。	A		
	希望する進路が実現できるように支援を強化する。	就職指導を充実させて、目標を持って就職活動ができるよう働きかける。廊下に進路資料コーナーを作り、日頃から進路についての情報に触れさせる。	A		
保健室指導	基本的生活習慣を身に付けさせる。自身の健康で安全な生活の重要性を理解させる。	建康診断実施の意味や、重要性を理解させるために、全員が受診できるような工夫をする。また、結果をなるべく早く知らせ早期治療を目指す。	A	B	・健康診断については実施計画をHRで詳しく指導をしていただいたおかげで予定時間通りに、ほぼ全員が実施できた。健康に関しての意識も向上してきたと思われる。 ・次年度は事後措置の重要性を理解させるとともに、基本的生活習慣の確立を目指していきたい。 ・健康観察は、感染症対策以外に生徒の変化気づくことができる場面のため、次年度も継続していく。
		心の問題を抱える生徒の支援として、健康相談を実施したり、必要に応じてスクールカウンセラーへの相談に繋げる。	B		
		感染症対策は引き続き実施し、感染予防に努めさせる。健康な生活の継続を目指す。	B		
図 書	本に親しむ習慣を身に付けさせる。	生徒の読書意欲を高められるよう、図書の案内や、読書環境の整備に努める。新聞や書籍等を教科の授業でも活用する。	B	B	・図書の整理等は引き続き行っていく。さらに、読書の啓発に努める。

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価		次 年 度 へ の 主 な 課 題
第 1 学年	基本的な学習習慣を身に付けさせる。	授業に参加することの大切さを理解させ、毎時間目的をもって学習する習慣を付けさせる。	A	A	・定期的な面談や日々の観察・対話を通して、これまで学校生活に適應できずにきた生徒たちが、色々な人と交流しながら高校生活に馴染むことができた。 ・早めの登校による学習や家庭学習の習慣ができた。
	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	学校生活における基本的な生活習慣を理解させ、集団生活を通じて規範意識を養わせる。LHRの時間や学校行事などの機会を通して人間関係を育てていく中で、他者に対する思いやりの気持ちを持たせる。	B		
	高校生活に意欲を持たせる。	様々な理由で学校生活に適應できずにきた生徒達であることに留意し、面談を行いながら生徒理解に努め、各人に応じた目的を持たせて高校生としての生活に意欲を持たせる。	A		
第2学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	定期的・継続的な遅刻・欠席・挨拶・授業態度等に関する指導を行うとともに、家庭環境・心身の状態に留意しつつ、家庭との連絡を密にしながら適切な指導を行う。	A	A	・コロナ禍で精神的に不安になる生徒もいたが、生徒面談の充実、及び授業に集中させる体制づくりを行った結果、生活の乱れ等もなく遅刻、欠席も少ない一年を送ることができた。
	基礎学力の向上を図る。	生徒の実態に応じたゆとりある授業編成を計画するとともに、日々の生徒の学習環境・心身の状態に留意し、授業の大切さを強調しながらその出席率の改善を図る。	B		
	進路についての意識向上を図る。	個別面談やHR等を通して生徒理解を深め、将来の就労や進学に向け意識の向上を図る。	A		
第 3 学年	自己実現を図るために、基礎学力の定着に努める。	自己の目標を明確にさせて、意欲的に授業に臨むことができるように指導する。	A	A	・個別的な進路面談や面接練習を継続的に行うことにより、生徒が希望する大学の合格を得ることができた。 ・次年度も生徒が希望する進路を実現できるように、個別面談を通してサポートしていく。
	卒業後の進路を見据えて、個々の生徒に応じた進路指導を行う。	適宜進路についての面談を行い、進路実現のために情報を提供して、各人が目標を持って学校生活を送れるよう指導する。	A		
	挨拶等礼儀作法の大切さを理解させ、身に付けさせる。	学校生活の様々な場面や面接指導などを通して指導してゆき、社会で必要とされるマナーを身に付けさせる。	B		
第 4 学年	高校生活最後の学年にふさわしく目標・目的を持ったハリのある生活を送らせる。	あらゆる機会にできるだけ個別指導を行う。また、保護者との連携を密にする。機会を見つけて面談を行い、卒業に向けて目標を持った学校生活を送れるよう指導する。	A	A	・面談をこまめに実施し、定時制全体で細やかな進路指導を行うことで、生徒に合う進路を決めることができた。今後も引き続きサポートしていく。
	進路指導の充実を図る。	各種進路情報を収集し、そのつど生徒に提供する他、面接指導など、希望進路実現に向けた取組を実施する。	A		
	実社会に適應できる習慣や能力の向上を図る。	あいさつやマナー、協同作業を通じて課題を達成する能力など、卒業後社会人として必要な習慣や能力の向上を図る。	B		

※評価基準： A＝良好 B＝普通 C＝不十分（問題あり）